



## 谷村 邦久

一般社団法人東北経済連合会 副会長

### 世界とつながる東北・岩手にむけて！

ラグビーワールドカップ2019™釜石の会場「釜石鵜住居(うのすまい)復興スタジアム」の落成イベントがさる8月19日、吉野復興大臣、鈴木オリ・パラ大臣(いずれも当時)、森日本ラグビー協会前会長ほか多くの来賓のご出席のもと開催されました。当日は新日鉄釜石と神戸製鋼のレジェンドチームが対戦し、色鮮やかな大漁旗が舞うなど、地域の文化とスポーツが融合するパワーを体感いたしました。また前日には同じ釜石市で、岩手県が主催する「三陸防災復興プロジェクト2019」のプレイイベントも行われ、釜石は、いやが上にも熱気を帯びました。本県の最大の課題は東日本大震災津波からの復興の完遂であります。これらの行事を通して私は、その先への明るい希望を見いだした気がいたしました。

また、6月22日には、岩手県初の「宮古・室蘭定期フェリー航路」が開設され、新たに北海道と岩手を結ぶ「海の道」ができたことにより、観光や物産などのビジネスチャンスが期待されております。9月6日未明、北海道胆振東部地震が発生し、甚大な被害をもたらしましたが、たまたま私は、9月4日から6日まで旭川市で開催された北海道・東北商工会議所連絡会議に出席しておりましたので、空路や陸路が断たれる大混乱を目のあたりにいたしました。「海の道 宮・蘭フェリー」は、早速被災地の緊急支援に大きな役割を果たしましたが、私は、あらためてバランスのとれた交通網整備の重要性を痛感し、岩手県が課題として抱えている沿岸と内陸を結ぶ二次交通の整備などミッシングリンク解消にむけた国への更なる働きかけに意を決した次第です。

国際リニアコライダー(ILC)の誘致・実現は、本年末に予定されている次期「欧州素粒子物理5か年戦略」にILCが盛り込まれることが必須であり、そのためには政府が年内にも前向きな意思表示をする必要があります。岩手県ILC推進協議会では、本年7月に「ILC日本誘致がもたらすイノベーション・経済波及効果調査」結果を発表いたしました。本調査では、ILCが国や地方の成長戦略に位置づけられることや、産業・企業等が積極的に参画することにより「基盤技術(加速器関連技術)の発展・利用による経済波及効果」が20年間で5兆7,200億円になると試算し、科学的意義のみならず、経済政策としても非常に大きな意義があること、さらに、地域主体の立案・挑戦から生まれる「世界とつながる新たな地方創生」が重要であると強調しております。ILCは「アジア初の大型国際研究機構」であり、その誘致実現により世界から多くの人材が交流・定着する「知と技術のフロンティア」が東北に形成され、多面的な効果が期待されます。今まさに正念場であり、国民の理解促進と地元の受入れ態勢の整備を加速させ、政府の決断の後押しをしまいにあります。

「東北は一つ」の基本理念のもと、希望の持てる未来創造を目指して活動してまいりますので、一層のご指導・ご支援をお願いいたします。

(岩手県商工会議所連合会会長・やむら くにひさ)